

2. 都道府県警察による分析事例

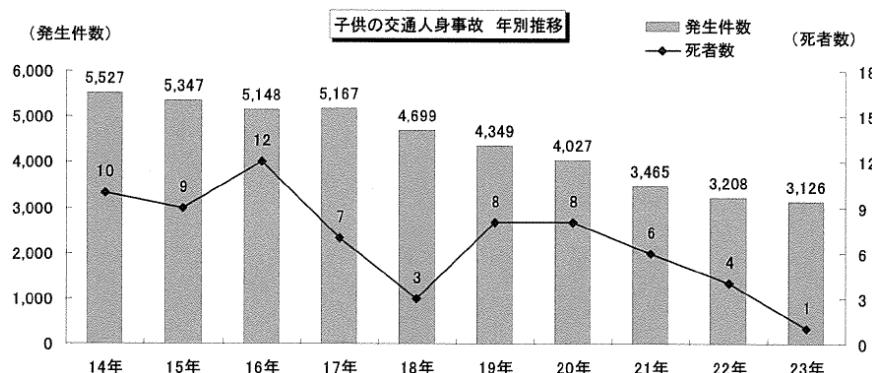
各都道府県警察においては、都道府県内の交通事故件数及び交通事故死者数に係る統計データの作成や傾向分析等を実施している。そこで、子どもの交通事故の地域別の傾向の違いを見るために、各都道府県警察において実施された、子どもの交通事故件数等の傾向分析を例示する。ここでは、三大都市圏の中から警視庁、神奈川県、兵庫県の分析事例、それ以外の地方圏から宮城県、鳥取県の分析事例を紹介する。

(1) 警視庁の分析事例

警視庁「平成 23 年中の各種交通人身事故発生状況
～子ども（幼児、小学生、中学生）の交通人身事故発生状況～」
http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/toukei/jiko/data/jiko_child.pdf

発生推移

- ✓ 事故件数は平成 17 年以降、減少傾向で推移している。
- ✓ 負傷者数は平成 14 年以降、死者数は平成 20 年以降、減少傾向で推移している。



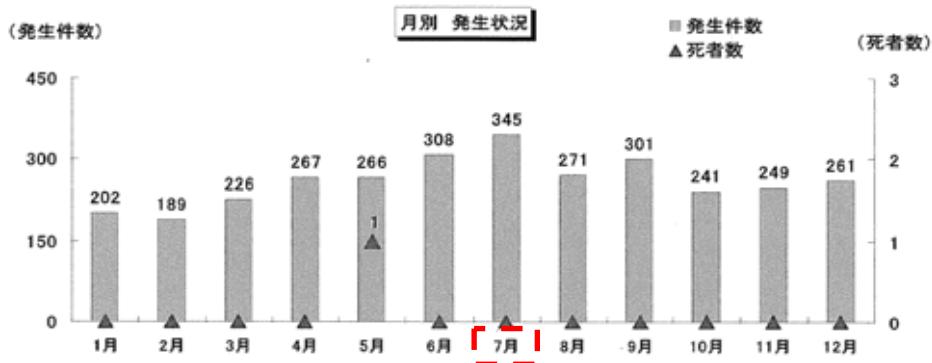
年別	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
発生件数	5,527	5,347	5,148	5,167	4,699	4,349	4,027	3,465	3,208	3,126
(指標)	(100)	(97)	(93)	(93)	(85)	(79)	(73)	(63)	(58)	(57)
死者数	10	9	12	7	3	8	8	6	4	1
(指標)	(100)	(90)	(120)	(70)	(30)	(80)	(80)	(60)	(40)	(10)
負傷者数	6,902	6,655	6,497	6,376	5,807	5,378	4,956	4,287	4,029	3,942
(指標)	(100)	(96)	(94)	(92)	(84)	(78)	(72)	(62)	(58)	(57)

発生件数は子どもが第 1、2 当事者となった事故の合計件数。

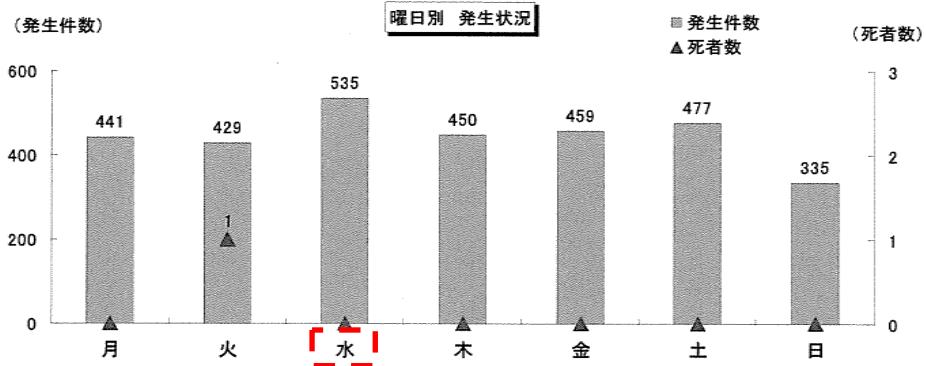
死者数、負傷者数は車両同乗等を含む子どもの被害者数。

発生特徴

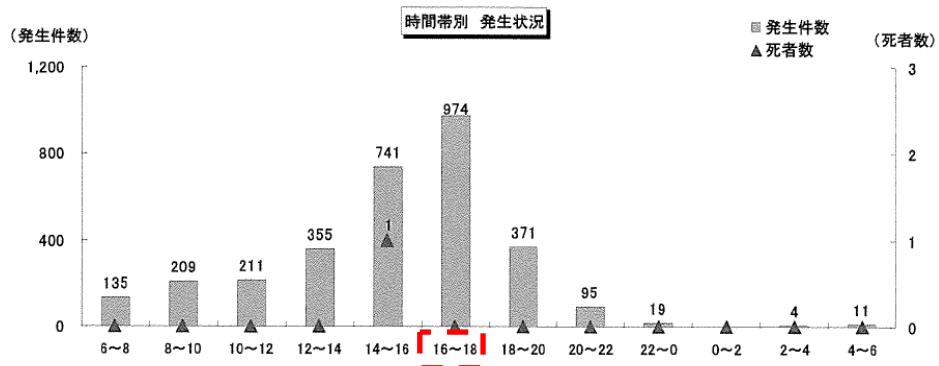
- ✓ 月別の事故件数は、7月が最も多い。



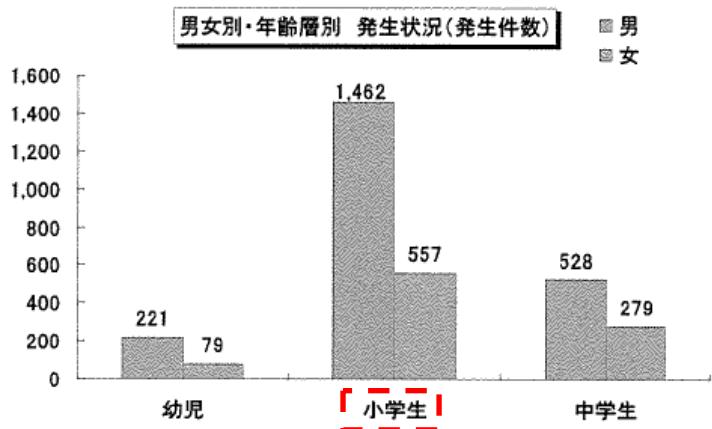
- ✓ 曜日別の事故件数は、水曜が最も多い。



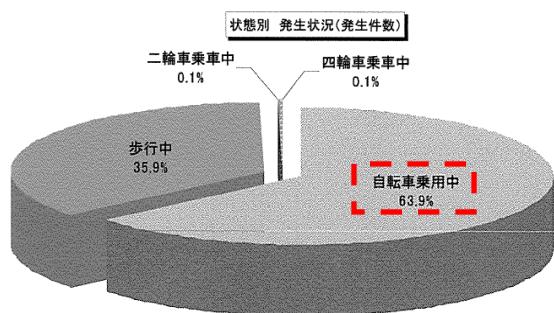
- ✓ 時間帯別の事故件数は、16～18時の夕方に多い。



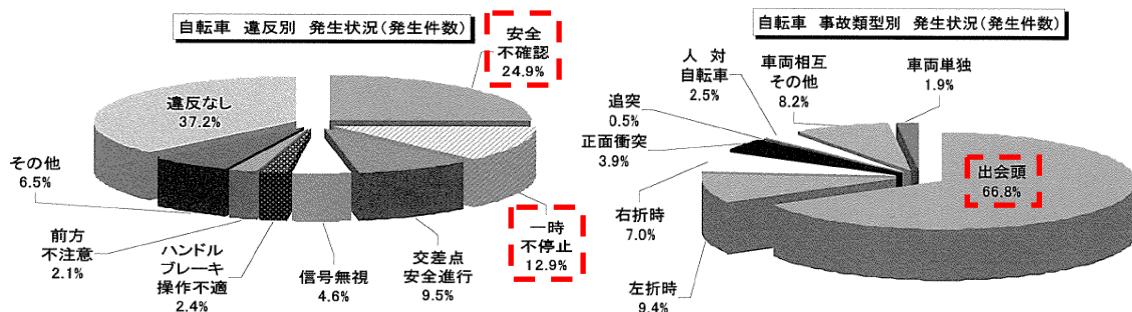
- ✓ 学齢別の事故件数は、小学生が6割であり、小学生の男子の事故件数は女子の約2.6倍である。



- ✓ 状態別の事故件数は、自転車乗用中が全体の約6割、歩行中が約4割である。



- ✓ 自転車乗用中の違反別の事故件数は、安全不確認や一時不停止等が最も多く、事故類型別では、出会い頭の事故が多い。



- ✓ 状態別の事故件数の約4割は、歩行中である。歩行中の違反別の事故件数は、違反なしが最も多く、続いて飛び出しである。事故類型別の事故件数は、横断歩行中のその他が最も多い。

